

母親委員会だより

平成28年12月発行

11月18日(金)に、午後6時30分から四倉中学校母親委員会主催のバズセッションを開催しました。

テーマの「子どもの心を動かす言葉かけ～子どもと向き合う～」をもとに、みんなで語り合いました。

参加を希望された方や母親委員、PTA本部役員、先生方が5つのグループに分かれ、第1回目は共通のテーマである「1 思春期・反抗期の言葉かけ」「2 学習意欲を高める言葉かけ」からグループごとに選んで話し合いました。その後、各グループの発表を簡単に行いました。2回目は、事前のアンケートに寄せられた13のテーマから、各グループで選択し、お互いの子育ての様子や悩みを忌憚なく語り合いました。子育てがベテランの方々の意見を聞いたり、先生方も自分の経験話すなど大盛り上がりで、あっという間の時間でした。グループごとのまとめの発表は、うなずいたり、メモをとったりしながら聞いていました。



最後に、いわき市主催の母親リーダーセミナーで配布された「優位感覚チェックシート」から、自分が物事を学ぶときに、視覚、聴覚、身体感覚、言語性のどの感覚を使っているかなど、自分の特性について振り返りました。

「来て良かった。」との声が多く、ポスターを作成したり手作りの飾り付けをしたり、会場や湯茶類の準備をしてくださった母親委員の皆様もほっと一安心でした。



アンケートで質問を寄せてくださった方の参考に少しでもなれたらと考え、バズセッションの内容をご紹介します。

1. 共通テーマのまとめ

- ◇子どもの話を聞いてあげる。
- ◇「今日は頑張ったね。頑張っているね。」と声をかけたら、やる気が見られた。
- ◇良かった言葉かけは、「頑張っているね。」「～だね。」など認め励ます言葉である。
- ◇子どもと接する機会が多いと、普段通りに話ができる。
- ◇年齢差がある場合、争いがなく、上は下を面倒を見るし、下の子は上の言うことを聞く。
- ◇子どもからの意見によると、親は行動で示してほしいようである。
- ◇小さな事でもほめる、認める。
- ◇親が自分の経験から子どもに同調すると話してくれる。
- ◇夫婦が話し合い、同一歩調で子どもに接する。
- ◇子どもの成長過程で、上の子、下の子の力になるような言葉かけをする。
- ◇朝起きられず寝坊する場合、荒立てず見守る。
- ◇親も一生懸命頑張っているから、子どもにも「一緒に頑張ろう」という気持ちで、小さい頃から育ててきた。
- ◇「黙っていたら伝わらないよ。」と言い続けてきた。子どもが困っている時に助けられる親でいたいと思いながら育てている。
- ◇子どもへの言い方や話す量を考える。
- ◇子どもに寄り添った言い方を心がける。
- ◇選択肢を与え、「自分で選んだ」という実感を持たせる。
- ◇一人っ子で、違う年代と付き合う機会がなくなってきている。→環境の違いで、人との付き合い方を覚える。
- ◇母親の仕事が忙しく、子どもの話を聞かない上に親子げんかをしたら、子どもがいなくなった。→親子でよく話したら、子どもがすっきりした顔をしていた。
- ◇思春期は不機嫌で、答えは自分の中でわかっている。「試験がうまくできなかった」→「どうすれば良いか分かっているならそうしたら？」◎。「先生の言うことを聞いていないからだよ。」×
- △勉強部屋が別だと様子が見えずに、「勉強しているの？」と言いがちである。→「やってるよ。」と反発される。
- △反抗期の子どもは、自分から話をしないので、口調が怒っているように聞こえると全く話さない。言い過ぎたら謝る。
- △一番上の子のため、親としての接し方に悩んでいる。
- △子どもの人間関係に口をはさむのはよくない。
- △会話が少なくなかなか言葉かけができない。
- △兄弟間で比較するような言葉かけは、失敗する。
- △今の子は反抗期が少なく、幼い感じがする。

2. 各グループのバズセッションのまとめ

- (1) 思春期、子どもの恋愛、異性への関心には、どのように対応したら良いか？
→親に隠していても、親は知って見守っていた。嘘をついたら怒られたが、素直に話せるようになったら楽になった。その都度、駄目なことを言ってもらえて良かった。(体験より)
- (2) 「学校に行きたくない」という時→子どもの布団に親が入ると飛び出して学校へ行った。(ある家庭の成功例)
- (3) 子どもには「親友」がいるか？「競争心」はあるのか？本音で話せる人間関係の確立は出来るのか？
- (4) 失敗したくない、おとなしい。→失敗を克服する力をつけてほしい。
- (5) 免疫がないので平和な生活を、状況を好む。
- (6) 人と足並みをそろえる様子が多く見られる。
- (7) 実験の失敗を隠す。→生活の失敗も隠すようになるのでは？と不安である。
- (8) 情報や物があふれていることを当たり前で思っている。→失敗を勧めたい。
- (9) 家庭学習はどうしているか？学習は、家のどこで行っているか？個室カリビングか？
→どちらもよい点がある。集中できるところで良い。
- (10) 長男長女は、高校についての情報がないので、高校説明会に参加したり、同じ部活の保護者と仲良くして聞いたり、親も情報を収集する必要がある。
- (11) 反抗期の子どもへの接し方→困ったときには手を差し伸べるが、そっと見守ることが大切である。親に言いたくないことは無理に聞き出さず、本人が話すのを待つ。子どもは、親に言わないことを、先生や周りに話して、はげ口、逃げ道を子どもなりに見つけている。
- (12) 駄目なことは子どもにしっかりと伝え、子ども自身が気づいて間違った方向に行かないようにすることが大切である。
- (13) スマホの使用は、家庭でルール(時間など)を決めている。
- (14) 親がせっかちに子どもから話を聞き出そうとすると、子どもは言葉で伝えるのが下手なので話すのが面倒になり話さなかったことが後で分かった。
- (15) 女の子はよく話すので状況は分かるが、複雑な人間関係を理解できない。



今年度も研修会やセミナーがありましたのでご紹介します。

まず、「四倉・久之浜方部PTA連絡協議会『教育講演会』」は、いわき市立大浦小学校で開催されました。いわき市立四倉学校給食共同調理場の栄養教諭達と、「子どもの食育についての講話」、「だしの味比べの実験・体験」、「グループ討議(バズセッション)」が行われました。生徒に大人気のツナご飯や具だくさん味噌汁を作って試食しました。また、各家庭の食事で心がけていることなどを語り合いました。

次に、「第1回青少年・家庭教育研修」がいわき市文化センターで開催されました。「親子のあり方」についての実習体験を交えた講義や、「子どもを伸ばすほめ方、叱り方」などの講義がありました。その研修で聞いたアドバイスを実践したら成功したという、参加者のお話が校内バズセッションで紹介されました。参加者によれば、セミナーや研修には積極的に参加すると、よいアドバイスなど得るものがあるという感想でした。



【実践して成功したアドバイス】

- ◎斜め45°の位置で話すと良い。面と向かって話すより、表情が柔らかく見える。
- ◎機会を捉えて肯定してあげる。
- ◎親も情報収集に努めることも必要である。

来年度も「一人一役運動」やプリントでご紹介しますので、教育講演会やセミナー、バズセッションには、たくさんの方々に参加していただけることを願っております。

母親委員の皆様、たいへんありがとうございました。